

令和4年度 北斗の子体夢経営について

1 本校北斗の子体夢のねらい

- 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けると共に、ふるさと長崎の特徴やそのよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付くことができるようにする。
- 自ら課題を見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理・分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けることができるようにする。
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むと共に、持続可能な社会を実現するために自ら社会に参画しようとする態度を養うことができるようにする。

2 目指す子ども像

総合的な学習の時間では探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育てることを目指している。その実現のためには、様々な人と関わり、フィードバックを受けたり試行錯誤を重ねたりすること、仲間や支えてくれる人たちと協働して活動を前進させる喜びを味わうことなどを通して、取組の過程や結果を充実させることが必要である。こうすることで、子どもは自分自身の営みに自信をもち、「やりがい」を見いだしながら新たな課題解決の原動力とすることができるであろう。

そこで、本校総合部では、この「やりがい」を見い出す子どもを育むことを目指す。「やりがい」とは、物事を行うにあたっての心の張り合いのことであり、取り組んだことに対する充実感や手応えを意味している。「やりがい」を見いだした子どもは、社会に積極的に参画したり多様な考え方もつ他者と適切に関わり合ったりする。この経験を通して、子どもは自らの言動に信念をもつことができるようになり、やがて、この時間が目指す自己の生き方を考えることにつながっていくと考える。

以上のことから、本校総合部が目指す子ども像を次のように設定する。

「やりがい」を見い出す子どもの育成

3 学習過程

(1) 単元全体を通した問題解決学習の基本的な学習過程

課題を発見する	見通しを生かし、思考する			振り返る
課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現	つなぐ振り返り（過程ごと） 深める振り返り（単元末）
	（この間、実践活動を行う）			
対象と出会い、個人やグループの課題を設定する。	探究ナビの視点に基づき、情報を収集し、整理・分析する。必要に応じて実践活動を行い、課題解決までの流れを対象や周囲に伝える。			過程ごとや単元末の振り返りを書き、共有することで、自分の考えを整理し、見つめ直す。

(2) 1単位時間における問題解決学習の基本的学習過程

課題を発見する	見通しを生かし、思考する	振り返る
課題を見い出す	課題を解決する（話し合い・実践活動）	振り返る
振り返りを基に、本時で解決したい課題を見いだす。	課題を解決するための学習活動を行う。 ※話し合いや実践を行う時間を確保する。 ※個・グループ・全体など多様な解決の場を設定する。	一人一台端末に振り返りを記入し、自己の学びの意味や価値を自覚する。

4 方策

○ 子どもが主体的に課題を見だし、お互いのよさを尊重しながら課題を解決することができるようにするために、以下の方策を行う。

(1) 課題並列型単元・活動複合型単元の設定

子どもの多様な興味・関心を学習過程に反映させるために、単元の設定において、複数の課題を並列的に探究したり、活動を複合的に行ったりする機会を設けることで、思いや願いを生かして、子どもが自ら対象に働き掛ける姿が見られるようにする。

課題並列型単元

子どもが探究したい対象が多様に出されている場合に、探究課題を複数設定する。時期や学習内容に合わせて取組を往還しながら課題解決を行うことで子どもの思いや願いを生かした探究ができるようにする。(図1)

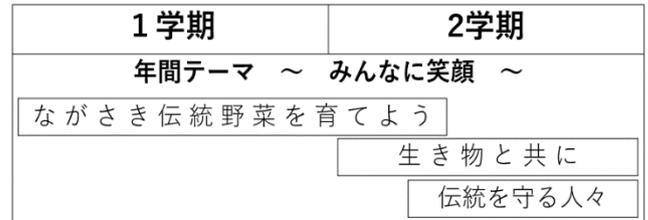


図1 課題並列型単元の流れ

活動複合型単元

一つの探究課題について、複数の解決方法がある場合に、子どもの興味・関心に応じた活動グループを編成する。それぞれの立場で課題解決を進めることで、主体的に探究を進めることができるようにする。(図2)

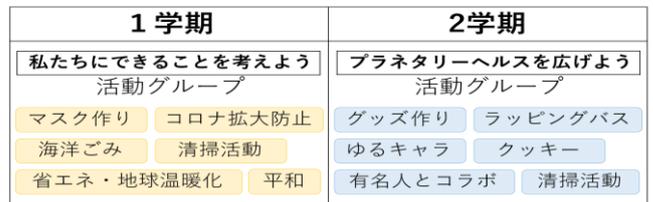


図2 活動複合型単元の編成

(2) 探究ナビによる過程の見える化

子どもが課題解決の過程で考えたことを、探究ナビの視点に基づいて可視化する。それぞれの取組を話し合う際の論点を捉えたり優先順位を付けたりすることで、子どもが探究の方向性を確かめ、自分の学びを客観的に見つめることができるようにする。

① それぞれの活動について次の視点を具体的に検討する。

目的	調査	道具	サポーター	スケジュール
何のために活動を するのか。	何を調べればよ いか。	活動に必要な道 具は何か。	誰と連携して取 り組むか。	期間はどれくら い必要か。

② 活動の方向性（「調査が必要だ」、「実践のための準備をしたい」、「実践を進めたい」、「進め方はこれでよかったか」など）を話し合う。

③ 本時の活動において、視点ごとに振り返り、どの程度達成されたか、今後必要なことは何かを明らかにする。

(3) 学びを見つめる振り返り

子ども自身が、学習の成果や自らの成長に手応えを感じるための自己評価活動として「学びを見つめる振り返り」を行う。

「考えたことや話し合ったこと」「自分のよさ」「次への見通し」などの視点で振り返りを行うことを通して、自分なりの考えを明確にし、自分のよさや可能性を見つめることができるようにする。

振り返りを行う際には、一人一台端末を用いる。

同時編集機能を活用することで、よりスムーズな共有を図っていく。(図3)

教師は関連する振り返りを整理・分類し、次時の導入で価値付ける。この場を設定することで、子どもが自己の学びの意味や価値を自覚できるようにする。

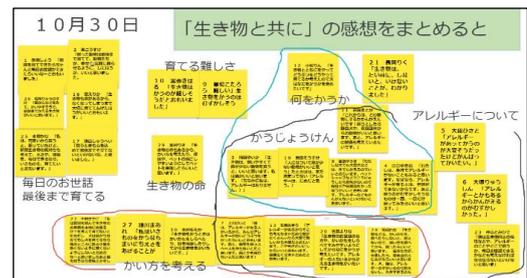


図3 同時編集機能を活用した振り返り